

平成23年度 札幌市医療安全推進協議会(基幹会議) 議事録(発言要旨)

項目	発言者	発言趣旨
報告事項(1) 平成22年度札幌市医療安全推進協議会専門会議の実施報告について	事務局 (鈴木職員)	ア：専門会議(情報提供)についての実施報告 <ul style="list-style-type: none"> 札幌市医療安全支援センター事業概要の発行について、相談事例の検討を行った。 医療安全講習会についての助言があった。 イ：専門会議(院内感染防止)についての実施報告 <ul style="list-style-type: none"> 感染性胃腸炎院内発生報告調査の概況、今後の報告体制の方針等について説明し、意見があった。 多剤耐性菌に関する最近の動向について現状報告を行った。 ウ：専門会議(医療事故防止)についての実施報告 <ul style="list-style-type: none"> 医療事故、調剤過誤関連の相談事例についての検討を行った。 医療安全講習会の実施結果について概要報告を行った。
報告事項(2) 平成22年度医療安全推進事業について	事務局 (鈴木職員)	ア：平成22年度市民相談結果の概要(資料2-1~2-5)について説明。 イ：平成22年度医療安全講習会の実施報告(資料3)について説明。
	山口委員	・資料2-1の施設別相談内容で、その他というものがすごく増えている印象だが、こういった施設があるのかと、前年度と比較すると100件程増えているので、その原因を教えてほしい。
	事務局 (永井係長)	・まず、こういった項目・施設とかが入ってくるかという、施術所や当所の所管外である整体・カイロ・エステに関するもの、介護福祉施設等に関するものがある。また、施設分類に該当しない相談というものがあって、例えば医療機関の問合せなどが多くなっており、健康相談のようなものもある。 ・それから、これが一番多いのだが、匿名性が高い相談で、施設名を言わない相談例が多々あり、この中から内容より判断して病院・一般診療所と考えられるものが252件ある。これを病院とか一般診療所の分に上積みすると、その他がすごく増えたというわけではないということになると思う。
	川畑委員	・資料2-2で、看護体制に関することという項目があるが、具体的にどのような中味なのか。
	事務局 (永井係長)	・患者への処遇といったような形で、例えば入院患者さんに対する医療従事者の対応が不十分ではないだろうかといった内容のものが大部分である。
	川畑委員	・これは、病院なのか、施設には大差があるのか。
	事務局 (永井係長)	・大体、入院患者さんについての相談が多いので、やはり病院関係が多いかと思う。

	中田委員	<ul style="list-style-type: none"> 資料の2-2と2-3同じような内容なのだが、インフォームドコンセントの数字をどう評価しているのか、例えば私どもでは、まだまだきちんと説明して、理解して、納得してというのだけれども、これでいくとかなり数値が低いので、いい感じにコミュニケーションとれて説明等がよくなされていると評価してよいのか。 もう1点は、従事者の対応・態度に関する事、これはコミュニケーションとか色々な接遇も入ってくるのかわからないのですが、結構数値的に高いので、これもどういうふうに評価していくのか。
	事務局 (永井係長)	<ul style="list-style-type: none"> 項目をどのように分類するのは、難しいと思うのだが、従事者の対応・態度の中にはインフォームドコンセント不足と言った例も多々あり、どちらが重点的なのかということで相談員が判断して分類している。インフォームドコンセント、これで見ると少ないように感じるのですが、例えば複数項目選ぶとすると、一緒にインフォームドコンセントが入ってくるといったような感じになっている。
	松家議長	<ul style="list-style-type: none"> 1人の人で何件も質問する人がいるので、それ1件でどちらかという非常に偏るので、複数選択にして、中心になる一つ二つを選んでメインでやった方がどんな内容があるかわかりやすくなるので、もし可能であれば、早いうちにやれば統計的に意味があると思う。
	事務局 (永井係長)	<ul style="list-style-type: none"> 今回載せなかったのだが、実は重複選択というの統計はとっている。今回はそれが漏れていて申し訳ないが、次回、そういった形でも併せて載せたいと思う。
	本郷委員	<ul style="list-style-type: none"> 先ほどの看護体制だが、7対1とか10対1、あるいは療養型の施設とか様々あると思うのだが、そういった施設によつての質問状況というのは違いがあるのか。
	事務局 (永井係長)	<ul style="list-style-type: none"> 相談中に、患者さんにどういった病床とかいうことは聞いていないし、こちらが療養型かなとわかる場合もあるのだが、ちょっと区別がつかないところもあって、病院の種類ごとにどちらが多くてというような統計の取り方は、していない。
	本郷委員	<ul style="list-style-type: none"> 薬事に関する相談で、薬剤師等の資格に関する事という質問があるが、医務については医師の資格とか歯科医師の資格とかいった質問はないのだが、具体的にどのようなことを質問されるのか。
	事務局 (永井係長)	<ul style="list-style-type: none"> 今回の統計の中には、総合でいうと、医療従事者の資格に関する事の中に、例えば医科系のところでの無資格者による医療行為とかいったものが入ってくる。薬事のほうは、薬剤師さんと特定されるので、薬剤師でない方が、ちょっと薬剤師がいないときに調剤してしまったりといったような相談事例がある。

本郷委員	・薬剤師がいないときに、それ以外の方が調剤されているような気がするみたいな。
事務局 (永井係長)	・そうですね。わかるようにバッジとかつけている場合もあるのですが、そのようなものがなくてわからなかったりとか、あと時間的にちょうどいない時があって、そこにたまたま行った方が、あれ、いないんじゃないのという相談がある。
五十嵐委員	・薬剤師の資格に関しての話が出たが、調剤した行為を見たとか。それから投薬をしたという、いろいろなパターンがあると思う。その辺の細かい統計は特別出てはいないのか。
事務局 (永井係長)	・薬剤師の資格に関する事で、これが薬事全体で6件なのだが、そのうち薬局だけを取り上げると3件ということで、これが無資格者ではないかという例であるが、その判断をしたのが、投薬のときなのか、調剤のときなのかというのは、その時々によって違っていた。
五十嵐委員	・それは特定の薬局とかではなく、ばらばらと考えてよいか。
事務局 (永井係長)	・ばらばらで。
五十嵐委員	・資料2-5の中で、調剤過誤が1件上がってきているが、これは結果として調剤過誤が疑われたのか、それとも調剤過誤であったのか。
事務局 (永井係長)	・この1件というのが、昨年度の医療事故防止に関する専門会議の中の、調剤過誤で出ささせていただいた例であり、診療所側と薬局側の確認不足で、結果的に小児の量ではなく成人の量を処方してしまった例である。
山田委員	・資料2-4だが、歯科の場合。治療費が総合の約3倍ということですが歯科医師会でやっている電話相談では、治療費に関することはこれ程高くはない。これは、治療には満足しているが治療費が高いということなのか、それともこんな治療でこれだけ高くとられるのかという感じなのか。
事務局 (永井係長)	・多いのは、単純に自分が思っていたより高かったというものと、治療の途中で納得がいかないのに、治療をやめて返金を希望する例があるのと、治療は受けたが、結果的に治っていないじゃないかとか、入歯を作ったけどうまくできていないじゃないかということで成果がないのでお金を支払いたくないといったような相談が寄せられている。
山田委員	・もう1点情報公開に関する事ですが、これは主に領収書のことが多いのでしょうか、どうしても歯科の場合、医科よりちょっとまだ遅れている部分があるので。

	事務局 (永井係長)	<ul style="list-style-type: none"> 領収書ではなくて、やっぱりカルテの開示である。例えば口腔外科とか手術が入ったような場合に、その結果、思わしくなかったというようなときに、カルテを開示してほしい、けどなかなか開示してもらえないとか、そういった相談が多いと思います。
	松家議長	<ul style="list-style-type: none"> 治療費は、医科でもだんだん委任契約と委託契約と勘違いしている方がいるので、保健所の方で、医療とか歯科は普通の契約が準委任契約であるというようなことを啓発していただくと、余りトラブルにならないのではないかと思う。
	小山田委員	<ul style="list-style-type: none"> 資料2-2と2-3の院内感染についてですが、時期的なものがあるのか、例えば冬季に関わるものが多いのか、それとも全体的に昨年は多剤耐性菌の問題等があったので、そういった関連のものが多いのか。
	事務局 (永井係長)	<ul style="list-style-type: none"> 去年ちょっと多いと思ったのが疥癬。特に疥癬については、冬場だけということではなくて、夏場からも相談があった。あと一般的に多いのはノロウイルスとかは冬場に多いという傾向はある。
	事務局 (永井係長)	<ul style="list-style-type: none"> そうですね。大体多くは療養型とか、高齢者の方が多いところ。
議事(1) 平成23年度札幌市医療安全推進協議会の運営方針について	事務局 (永井係長)	<ul style="list-style-type: none"> 平成23年度札幌市医療安全推進協議会の運営方針(資料4)について説明。 札幌市医療安全相談窓口の運営方針(資料5)について説明。 医療安全講習会の実施(資料6)について説明。 本年度初めて実施する医療安全アドバイザー事業(資料7)について説明。 こちらも初めて実施する市民講座(資料8)について説明。
議事(2) 平成23年度医療安全推進事業について	松家議長	<ul style="list-style-type: none"> 協議会の運営方針について、基幹会議を年3回にすると、専門会議もそんなに時間かからないと思いますので、これでいいかと思います。
	松家議長	<ul style="list-style-type: none"> 次に相談窓口の運営方針ということで、今年度はホームページの中に医療機関を受診する際の注意事項と、よくある市民相談Q&Aを入れてみたいということだが、何か意見はあるか。 日本全体の医療安全センターのホームページを見てみたが、結構、実際の相談内容の事例集を出しているところが多い。HPを見たとき、医療機関にしてみれば、患者さんはこういうことでクレームを感じていると、患者さんからすると、こんなことを相談してもいいんだというふうになって、もっと相談件数が増えるのではないかと思うので、次回からでも結構ですが、札幌市でも

松家議長	こういうのをちょっと載せてあげればと思う。そうすると相談窓口が活発化するというか、ここで少しでも患者や市民の不安がとれれば医事紛争が減ってくると思うのですよ。
事務局 (永井係長)	・HPの市民向けの充実する内容、まだ詳細については検討しておりませんので、他都市の事例も参考にして、内容を詰めていきたいと思います。
松家議長	・医療安全講習会、院内感染対策セミナーについて、特に意見がなければ、これで進めさせていただきたいと思います。市民講座は、南須原先生がインフルエンザとのお話をやって、賢い患者になりましょうはどなたがやるのですか。
事務局 (田森課長)	・前段の①は私の方で、患者啓発の色合いの濃いお話をさせていただいて、その後、南須原先生に主に感染症、呼吸器の専門としてお話していただく中で、一部先生の外来での御経験等を踏まえて、患者さんをお願いしたいこととかを少し盛り込んでいただこうと思っている。
松家議長	・何名くらい予定しておりますか。
事務局 (田森課長)	・保健所の講堂を会場とするので、約300名位を目標と考えている。
事務局 (永井係長)	・逆にちょっと質問させていただきたいが、今回、市民講座は初めての試みで、どれ位人が集まるのか不安なのだが、例えばこういった所にチラシ置いたらたくさん来るとか、もしお心当たりの所があれば、教えていただくと、大変助かる。
松家議長	・札幌市で家庭医学講座をやっているのですけれども、それで何を見て来ましたかというアンケートをとっているの、それを参考にするとよいと思う。広報さっぽろとか新聞とか、チラシというのは意外と見ていない。札幌市医師会もたくさんチラシを作っているのですが、なかなか難しい。データがありますので。
山口委員	・私、清田区の方で在宅ケア連絡会の幹事をやっている関係で広告等を地域に出しているのだが、人が集まると所でいうと、区民センターとかやっぱり役所関係にまず置かせてもらうということ。あとは、町内会につながっているような地域包括支援センター、福祉のまちづくりセンターとか、本当に確実に渡るような方法その地域の中では選んでやっている。
議事(3) 平成23年度事業 計画案について	事務局 (永井係長) ・平成23年度事業計画案(資料9)について説明。

<p>議事(4) その他</p>	<p>松家議長</p>	<p>・資料3の医療安全講習会の参加率が3割弱なのだが、医療安全の研修は年2回やらなくてはいけないですよ。こういう講習会に出て、それを持ち帰って職員たちに話せば、1回研修になるということを診療所の立入検査のときに言っていただきたい。これを使うのもいいよ。医師会でもやって、合わせて年2回になって、その資料を職員たちと共有すれば2回の研修になりますので。</p>
	<p>松家議長</p>	<p>・他に協議事項がなければ、これで議事を終了とする。</p>